（別紙4）

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2491300055		
法人名	株式会社　おりがみ		
事業所名	グループホームみずひき		
所在地	三重県名張市赤目町丈六243-9		
自己評価作成日	平成31年1月20日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kihon=true&JigyosyoCd=2491300055-00&PrefCd=24&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成　31　年　2　月　5　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

株式会社が変わり理念や、運営方針の見直しによりご利用者様の個別ケアと健康管理、寄り添いの介護の実施を重点的に置いている。介護記録の充実や管理を確実に行えるような体制作りと従業員への周知で統一したサービスを提供できるようになってきている。定期的な勉強会を行い介護技術の向上にも努めている。訪問看護ステーションとも連携を図っているので、看護相談、看取りといった医療面も積極的である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所の敷地内からは周囲に山が眺められて、近鉄最寄り駅にも近く、保育所・銀行・地域の公民館やセンター等社会資源が多く、環境に恵まれた地域である。玄関先の道を挟んだ前には駐在所も有り、利用者が安心して暮らせる地域の様子が伺える。毎月一度来訪の方により季節の新しい花が生け替えられ、玄関ロビーに飾られている。利用者が日中、リビングで絵文字カードを使った脳トレーニングやクイズ、ゲーム等をして過ごす時間帯には、職員が明るく和かに寄り添う姿があり、どの利用者からも明るく穏やかな声が聞こえている。これは日々の日課とされており、一人ひとりに優しく向き合う職員と利用者のアットホームな様子が伺える。2ヶ月に1回、認知症カフェを開催し、地域の方に認知症への理解と、認知症の人とその家族が地域で安心して暮らせる町作り推進の普及啓発に努めている事業所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有周知はまだ浸透できていない	玄関入って直ぐのロビーには、法人理念が掲示されている。理念を基に"利用者を第一に考えて、満足して貰える様に相手の気持ちを常に考えて支援している。"と職員の熱心な声がある。其れには、一人の利用者の声も大切に伝達をして行く事を職員間で共有し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	芋堀に参加や運動会の見学に行ったりしている	地域の小学校より運動会案内が届くと、利用者は競技の見学を楽しみにしている。秋祭りの獅子舞来訪では利用者が頭を噛んで貰い、楽しみと縁起の喜びに交流が持てている。隔月開催「町の保健室カレーの日食事会」には利用者も楽しみに参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かせていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見交換し向上に努めている	推進会議は今年度6回実施されている。会議では利用者の現在、地域行事や交流紹介、時節に応じた健康管理の取組み等をテーマにした内容で開催されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	取り組めていない	生活保護・後見人制度利用で2名の利用者入居があり、直接相談や書類等で、市の窓口へ連絡や協力関係を築いている。防災ラジオ設置もされており、災害対策にも必要時連携を図る様にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠は行っているが離棟や階段からの転落防止の為	玄関は全面ガラス張りで、キッチンやリビングから外の様子が良く把握出来るので、日中は施錠していない。利用者の動きや気配を見落とさない見守りや、職員間での連携プレーが出来ている。「身体拘束廃止」についてはミーティングの場で、全職員に徹底理解を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員間で徹底している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や市役所の指示を仰ぎ学習である		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	反映させている	家族面会時には声掛けを行い、利用者の生活や身体状況を伝え、家族からの話や要望を丁寧に聴く様に努力している。意見等が有れば、速やかな対応や改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングをし勉強中である	職員の気付きを、その場でその都度、上司に提案や希望を出したり、ミーティングでも聞いて貰う機会がある。職員の提案やアイディアが活かされ、改善や実施された事も多々あり、全職員が前向きな姿勢である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勉強会、看護師の相談で介護技術の向上に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	看護師が指導にあたっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流出来ていない		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の見極めが難しく、支援不足の時もある		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できていない	利用者の馴染みの理髪店からの迎えが有り、利用継続の支援に繋げている。家族の支援により墓参りや、自宅への外出泊にも少人数の利用者が出掛けている。ドライブでは馴染みの町や思い出の場所を通ったり、話をしたりしながら利用者を支えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様の意向になりがちである	入浴時の1対1の時や、夜勤の時等に利用者が日常には言葉にしづらい思い等を、ゆっくり向かい合い対話出来る時間を持つ様にしている。利用者からはテレビの話題が多いが、個々に関心がある事を把握出来る様に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	記録やサマリーを読み直し経過の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている			
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している		利用者の担当を定期的に交替している。6ケ月毎のモニタリングに基づいた計画見直しで、利用者視点に立ち、計画更新している。法人内より訪問看護の助言もプランに反映し、家族にも確認が出来ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の情報共有が出来ているも、介護計画にには反映出来ていない		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療が受け入れるように支援出来ている	利用者と家族の了解の上、全員が協力医の受診で、歯科は訪問診療の利用である。夜間緊急時は24時間訪問看護へ連絡、指示を受けて対応し、時には救急車対応経験があった。夜間急変で慌てる事が無い様、職員は利用者の健康管理に注意を配っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援できている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	チームでは行っている。主治医との関係も良好である		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様との話はできているが、地域とのチーム支援は行えていない	重度化や終末期の在り方には、利用者と家族に随時意思確認を重ねている。看取りについては、現在事業所としての力量や、医療機関との協力体制に課題もある為、実施には至っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師より指導を受け、勉強会の実施		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	築いている	年一回消防署立会い防災避難訓練と、事業所独自で利用者の避難誘導訓練を実施している。「職員一人の時には、歩ける利用者から先に。」等、職員間で話し合う機会もあり、前向きにマニュアルを見直している。	災害に備えて「通報者、火元消火担当者、利用者避難誘導者」等、日頃から全職員がいつどんな災害でも、稼働出来る様に、机上も含めて役割担当の訓練を実施される事を期待する。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	あまり、慣れなれしくらないような対応している	人生の先輩として、利用者への言葉遣いには気を配っている。どんな場面でも人格を尊重した声掛けは重要だと考え接している。職員の男性女性問わず、円満に利用者を尊重した入浴介助を行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り利用者様の意向に沿えるようような支援を実践中		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添えない場合もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の管理に努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は出来ていないが、片付けはお手伝い頂いている	食事前には利用者に、メニューの紹介や説明をしながら、食べる意欲と食事への関心を持って貰える様に工夫している。食事は業者調理済み食品を利用しているが、調理での音や匂い等で感じて貰っている。カレンダーの「1日」は餅米入赤飯の日で利用者にも好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	できている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食後のトイレ誘導を行い、排泄を促す	利用者の二人が排泄自立である。夜勤帯では、睡眠を妨げない範囲で、3時間毎に声掛けしてトイレで排泄を促しており、ポータブルトイレ使用者は居ない。日中は食後のトイレ誘導を個別に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の冷水と内服にてコントロール		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	順番等の工夫をしている	週2回午前中の入浴で、土日は足浴支援をしている。入浴を拒む方には根気良く声掛け誘導し、逆に入る意欲が有る時には順序良く入って貰っている。寒い時期の安全な入浴の為、ヒートショックが起きない様に、浴室や脱衣場の温度管理には注意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認表を作成し支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来ていない	四季に応じた花見や紅葉狩りは、毎年恒例で外出支援している。穏やかな日には、庭先に出て軽い散歩や陽なたぼっこ等、移動配慮をしながら支援している。車でのドライブは利用者の体調や時間帯を配慮し、車窓を楽しんで貰ったり気分転換に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援してない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援できていない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	している	玄関ロビーには縦型ピアノが置かれ、イベント等で使用されている。玄関開きが全面ガラス張りで、天井からの大きなガラス窓は、日中の灯りが要らない程に明るいリビングである。全体のどこに座っても居心地の良い雰囲気である。大きなリビングテーブルは、食事以外にも利用者同士が、多様な場面において活用出来、職員も利用者に接しやすい配置である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーの配置で対応		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り対応している	1階がリビング兼食堂や生活の場所で、居室は2階の為、利用者は日中の殆どを1階リビングで過ごしている。利用者や家族の意向に沿って、入居時より持込品は比較的少ないが、自宅から届いた家族写真や衣類収納家具等が置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	つい手伝ってしまうが、概ねできている		